基本目標 1 豊かな自然を活かし、安定したしごとを創造する

KGI（数値目標）：新規就業者数88人→100人（2020～2024年度→2025～2028年度）

1．既存産業の振興支援

① 森林再生
② 地産地消の拡大
③ 土産物販売の普及啓発
④ 地場産業支援
⑤ 就業支援

2．新規産業の誘致・起業支援

① サテライトオフィス誘致の推進
② 空土地等情報の収集・情報提供
③ 創業促進
④ 町有土地（学校跡地等）の情報発信

基本目標 2 地域の魅力を高め、交流から関係、そして定住へとつなげる

KGI（数値目標）：社会移動の均衡（転入－転出）数▲137人→０人（2023年度→2028年度）

1．移住・定住の支援・促進

① 空き家活用の推進
② 移住体験イベント・お試し移住の実施
③ 外国人受入に伴う環境整備
④ 若者世帯向け住宅施策の継続
⑤ 地域おこし協力隊の継続
⑥ 分譲地の拡充

2．ふるさと神河への郷土愛の醸成

① 村を守ろう、地域を守ろう、町を守ろう教育の推進
② 奨学金返還補助制度の創設
③ 通勤補助制度の検討

3．関係人口の創出・深化

① ふるさと納税・企業版ふるさと納税の推進

基本目標 3 希望をもって結婚・出産・子育てできる社会を実現する

KGI（数値目標）：出生数35人→50人（2024年度→2028年度）

1．子どもを産み育てやすい環境づくり

① ファミリー・サポートの充実
② 希望のもてる出産・子育て環境づくり
③ 病児・病後児保育の実施
④ 保育士の確保
⑤ 神河町図書コミュニティ公園の運営

2．出会いの機会創出

① 縁結び事業

基本目標 4 安心して過ごせる豊かな暮らしを実現する

KGI（数値目標）：神河町に住んで良かった、生まれて良かったと感じる住民の割合75%→80%（2023年度→2028年度）

1．地域力の強化

① 地域自治協議会の効果的な運営
② 地区防災計画の作成と防災リーダーの育成支援

2．男女共同参画社会の推進

① 女性活躍社会の実現プロジェクトの推進

3．ネットワーク＆アクセシビリティの強化

① コミュニティバス（デマンド交通含む）
② 病院ドクター等の地域巡回講座の開設
③ 訪問診療の実施

4．DXの促進

① デジタル環境の普及
② デジタル基盤の整備
③ デジタル人材の育成

神河町第３期人口ビジョン並びに地域創生総合戦略 ＜概要版＞

編集・発行：神河町　ひと・まち・みらい課
〒679-3116 兵庫県神崎郡神河町寺前64
TEL：0790-34-0002／FAX：0790-34-0691

神河町第３期人口ビジョン並びに 地域創生総合戦略

概要版

2025（令和７）～ 2028（令和 10）年度

策定の背景・目的

人口ビジョンとは、各地方公共団体における人口の現状を分析し、将来の人口の展望を提示するもので、総合戦略策定の基盤と位置づけられます。総合戦略とは、人口減少や少子高齢化といった課題に対応するために地域の活性化を目指す計画で、地方創生に関する施策の推進目標や基本方針を明確にし、行政、市民、地域、企業が協力して取り組むことを目的としています。

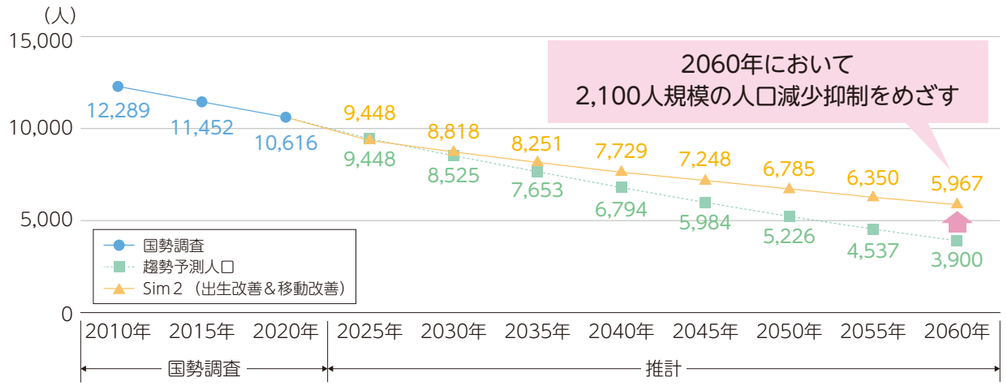
神河町では、2020 年に第２期人口ビジョン・地域創生総合戦略を策定し、人口減少カーブを緩やかにすることを目指してきました。しかし 2021 ～ 2023 年の出生数は 40 人台で、合計特殊出生率は 2022 年に 0.95 と全国 1.26（2023 年は 1.20）や兵庫県 1.31（同 1.29）にも届いていない状況です。また、消滅自治体の定義である若年女性の転出超過・減少に歯止めはかからず、転出抑制策が急務な状況です。

そこで、第３期人口ビジョン並びに地域創生総合戦略では、第２期分の施策を継承しながらも、新たにデジタル活用による地域の課題解決や女性活躍社会の実現を目指した施策に取り組む等、総合的かつ戦略的な神河町地域創生の取組を推進します。

人口ビジョン

神河町では、2060 年に 6,000 人程度の人口を目指します。趨勢予測人口（何も人口減少抑制対策を実施しない場合）は 3,900 人程度になると予測されており、2,100 人程度の人口減少抑制効果です。これは「出産：合計特殊出生率が 2060 年までに人口置換（人口が一定）水準 2.07 に改善、死亡：社人研の生残率仮定値を採用、移動：2030 年までに移動（転入・転出）が均衡」と仮定して算出しました。

神河町の将来展望（目標人口）

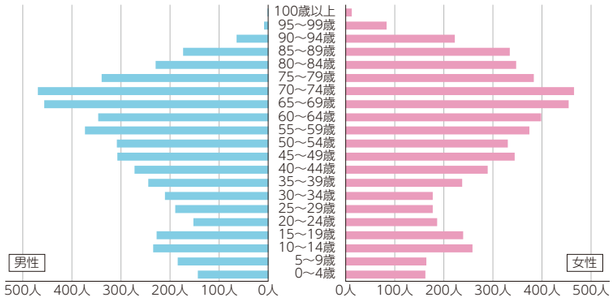


神河町の人口に関する各種データ

2020年の性別・5歳区分人口（人口ピラミッド）は、10歳未満人口が男女それぞれ200人を下回っており、少子高齢化は益々進んでいく傾向が見られます。

また、20～34歳の人口においても30～34歳の男性を除いて、200人以下となっています。

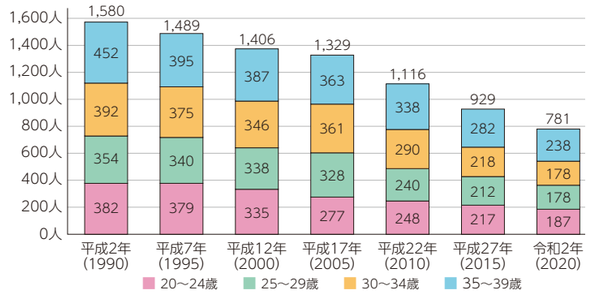
神河町の５歳階級別人口構造（令和２（2020）年）



20～39歳の女性人口は減少傾向で推移しており、1990年に1,580人から2020年は781人となっており、1990年から2020年までの30年間の人口減少率は50.6%です。

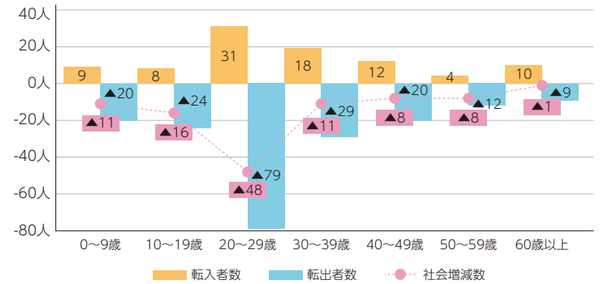
5年間の人口減少率は2020年に15.9%となり、全人口の減少率の約２倍超となっています。

若年（20～39歳）女性人口の推移



2023年の10歳区分別女性の転入・転出の状況は、全ての年代で転出超過となっています。特に20代は31人の転入に対して、79人の転出となり、48人の社会減（転入から転出を引いた数）となっています。

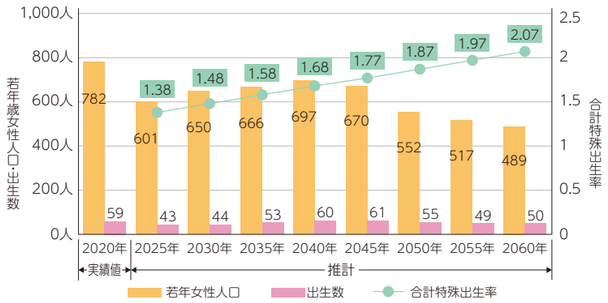
年齢10歳区分別　転入・転出の状況（女性、令和5（2023）年）



20～39歳の女性人口に関する将来の推計は、2020年の782人（年齢不詳補完値含む）から目標人口年となる2060年には489人になります。

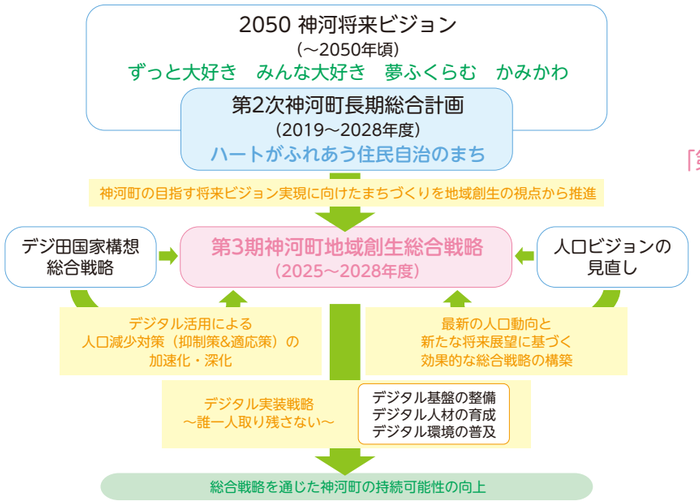
合計特殊出生率は2018～2022年の1.38を2025年に適用し、2060年に2.07まで増加すると設定しています。出生数は43～61人で推移します。

若年（20～39歳）女性人口と出生数の将来展望（目標人口）及び設定合計特殊出生率



地域創生総合戦略

「第３期神河町地域創生総合戦略」は、人口減少の抑制等を通じた神河町の持続可能性の向上により、本町における2050神河将来ビジョン及び第２期神河町長期総合計画の目指す将来像・将来ビジョンの実現を図るものです。



「第３期神河町地域創生総合戦略」で目指す目標

“交流から関係、そして定住へ”

人口ビジョンにある目標人口の実現に向けた人口減少対策として、人口減少の“抑制”と“適応”という欠かすことのできない２つの観点から、４つの基本目標を設定します。

人口減少への抑制戦略

基本目標 1 豊かな自然を活かし、安定したしごとを創造する

- 地域資源を活かした産業振興や新規産業創出等への支援を通じて、就業の場・機会を増やすとともに、地域経済の活性化を図る。

基本目標 2 地域の魅力を高め、交流から関係、そして定住へとつなげる

- 観光交流人口や関係人口を確保するための施策の充実を図り、ふるさと神河への郷土愛の醸成等によるUターン意向や定住意向の向上を図るとともに、若者世帯向け住宅施策や空き家活用により一層の転入促進を図る。

基本目標 3 希望をもって結婚・出産・子育てできる社会を実現する

- 安心して子育てのできる環境整備を推進するとともに、若者の出会いの場・機会の創出を通じて結婚への希望実現を支援することで、少子化抑制を図る。

人口減少への適応戦略

基本目標 4 安心して過ごせる豊かな暮らしを実現する

- 地域自治協議会の取組み向上や交通弱者に対する対策、総合病院を中心とする医療・福祉サービスなどの環境整備に加え、デジタル社会の活用・推進など、人口減少時代にあっても安心して過ごせる暮らしの維持・実現を図る。